

氏名	金 居 義 純		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2468 号		
学位授与の日付	平成 4 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	エンドトキシンおよび亜鉛投与ラットにおける腎メタロチオネインの誘導に関する実験的検討		
論文審査委員	教授 太田 善介	教授 産賀 敏彦	教授 大森 弘之

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

エンドトキシンおよび亜鉛投与時の腎におけるメタロチオネイン (MT) 誘導を検討するために、ラットにエンドトキシンを投与して腎のMT量と、腎MTメッセンジャーRNA (mRNA) の経時的変化を測定した。また、エンドトキシン、亜鉛による腎MT-isoformsの経時的変化も併せて測定した。腎MTmRNAはエンドトキシン投与3、6時間後にピークとなり、腎MT量は投与9時間後に最大となった。これより、エンドトキシンにより腎にMTが直接誘導されることが示唆された。エンドトキシン、亜鉛投与によるMT-isoformsはすべての時間でMT-IIが優位なisoformであったが、MT-IとMT-IIの比はそれぞれほぼ一定であった。また亜鉛誘導による腎MTは肝MTより分解速度が速いことが示唆された。今回の検討と従来 of 報告を併せて考えると、MTの誘導には臓器特異的な発現様式が存在することが示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はエンドトキシンおよび亜鉛投与時の腎におけるメタロチオネイン(MT)誘導を検討するために、ラットにエンドトキシンを投与して腎のMT量と、腎MTメッセンジャーRNAの経時的変化を測定したもので、エンドトキシンにより腎にMTが直接誘導されることや亜鉛誘導による腎MTは肝MTより分解速度が速いことが明らかとなり、MTの誘導には臓器特異的な発現様式が存在することを示した。これは新しい業績であり、よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。